

「だざいふ・ふるさと学習」の推進

校区が好きだという子供を育成する 小学校「総合的な学習の時間」の取組

太宰府市教育委員会

1. はじめに

太宰府市は、福岡市近郊に位置し、古来よりアジア諸国とのつながりが深い場所である。太宰府市には世界遺産はないが、平成27年度に「古代日本の『西の都』～東アジアの交流拠点～」として日本遺産に認定された。大宰府は、古代日本の重要な「西の都」であり、唐や奈良の都にならって築かれ、東アジアの先進文化と日本の文化とが行き交う場所であった。それは現在も太宰府市の随所にみられ、日本を代表する古都として人々を魅了している。さらに、改元により太宰府市が新元号「令和」ゆかりの地として大きな脚光を浴びることになった。

太宰府市には小学校が7校、中学校が4校あり、地域の歴史や文化を活かした教育活動を展開している。本市では、郷土を愛し、誇る児童生徒の育成をめざし、教育施策の1つとして「だざいふ・ふるさと学習」を推進している。

2. 教育目標

学校教育の目標：郷土愛と自律心をもった子どもの育成

だざいふ・ふるさと学習の目標：地域のひと・もの・ことを学びにつなぎ、体験的・問題解決的な学習活動を通して、自己有用感を高め、郷土愛と自律心を育てる。

3. 教育委員会・学校での取組

本市教育委員会では、「だざいふ・ふるさと学習」を推進し、市立全小・中学校に配付している「太宰府の歴史と文化を学ぶ副読本」を活用した取組、歴史・文化体験の取組、児童生徒の地域行事への参加・参画等を支援するとともに、教育委員会主催の「だざいふ・ふるさと学習推進委員会」において、各校の特徴的な取組についての情報交換などを行っている。本稿では、地域等と連携した歴史・文化体験の取組に関する事例を報告する。

＜実践事例＞ 「子ども史跡解説員」 太宰府市立国分小学校 総合的な学習の時間の取組

1 ねらい

校区内の史跡等について深く知るとともに、子ども史跡解説員としての活動を通して、郷土のよさを伝えていこうとする気持ちを高め、学びを社会に生かそうとする力を育成する。

2 計画（25時間）

時数	内容
2	○太宰府市の史跡や文化財について知り、学習課題を設定する。 ※古都大宰府保存協会の学芸員による説明
2	○学習計画を立て、見学する史跡や文化財について調べる。
3	○見学先を決定し、見学計画を立てる。 ・水城跡・松本遺跡・国分寺・国分瓦窯跡・四王寺山・陣ノ尾古墳・衣掛天満宮 ※大宰府史跡解説員によるアドバイス
4	○見学コースを歩き、史跡解説の内容を決定する。 ※大宰府史跡解説員によるアドバイス
6	○史跡解説のための資料や台本を作成する。

4	○現地で史跡解説の練習（リハーサル）をする。 ※大宰府史跡解説員によるアドバイス
3	○「子ども史跡解説員」として、観光客、地域の方、保護者等に調べてきた内容を解説する。
1	○子ども史跡解説員としての取組を振り返る。 ・大宰府史跡解説員、施設の方等への感謝の気持ちと共に、自分の故郷に対する思いをまとめる。

3 活動の実際

(1) 学習課題の設定

古都大宰府保存協会の学芸員からは、太宰府市の史跡や文化財の魅力や史跡解説員の活動について説明していただいた。児童は、自分が生活している太宰府市について知らないことがたくさんあることや、国分小学校の校区に数多くの史跡や文化財があることへの驚きと史跡解説員の活動のすばらしさを感じ取っているようであった。そこで、「太宰府の史跡や文化財を多くの方に伝える『子ども史跡解説員』になろう」という学習課題を設定した。

(2) 史跡解説に向けての準備

史跡解説をするための準備として、校区にある史跡や文化財の見学にあたり、大宰府史跡解説員から見るべきポイントやアドバイスをいただいた。児童は、見学していく中で、しっかりとメモを取りながら、自分が実際に解説していく際に、どのような資料を使って、どのような説明をするかを考えることができた。見学後、34の解説内容を決定して分担し、それぞれの解説資料や解説原稿を作成した。児童は、担当となった場所の解説をより分かりやすくするために、説明だけでなくクイズを入れるなどして工夫していた。

(3) 「子ども史跡解説員」としての活動

実際に史跡解説を行うにあたって、多くの方に集まっていただくために、「子ども史跡解説員」のチラシを作成し、自治会や保護者、隣接する小・中学校、市役所に配付し、参加を呼びかけた。活動当日は34グループに分かれて、準備をしてきた資料や原稿を使って自信をもって解説することができていた。地域の方や保護者、他市からの見学といった多くの参加があった。



(4) 振り返り

子ども史跡解説員としての活動後に、これまでの活動を振り返るとともに、お世話になった大宰府史跡解説員、施設の方等への感謝の気持ちを手紙で伝えるとともに感想を書いた。児童は、郷土である太宰府市や校区への愛着を感じるとともに、郷土の史跡や太宰府の魅力をもっと伝えていきたいという気持ちをもつことができた。

4. おわり

本稿で紹介した「子ども史跡解説員」の取組は、他校の取組の参考となり、本市の太宰府小学校でも、本年度から「子ども史跡解説員」が取り組まれている。このように、各学校の取組を市内の学校で共有することにより、各学校の「だざいふ・ふるさと学習」の取組が充実したものになっていくと考える。今後は、児童生徒にとって有意義な取組を継続しながら、効果がみられない取組は見直し、市内にある九州国立博物館を生かした歴史・文化体験を充実させたり、児童生徒の地域行事への参加・参画をさらに促したりしていきたい。